

---

## 編集後記

---

従来、私は透析医会を透析医療を主として医療者側の立場に立って医療経済の観点から追求する職能団体と考えていたが、透析医会誌の編集にたずさわってみて、透析医会が医療者、患者双方の立場に立ったよりよい透析医療の実践、推進団体であることがわかった。

現代医療では日々学術上の新発見が臨床の場で実践に移され、成果をあげている。しかし、その過程は医療経済上は非効率的であり、またその恩恵にあずかれる人は実際には極限られる場合が多い。一方、マニュアルの整備などのようなより日常的で些細な問題に対する地道な対応の普及は、医療経済上無駄が少なく、実地臨床上より多くの人に効果をもたらす。透析医会が取り上げる Consensus Conference, Current Topics のテーマはこの日常的で些細な、あるいは議論のある古くて新しい問題を多く含む。本誌の広報委員の一人である私がこのようなことを言うのはどうかとも思うが、透析医会誌はこのような現場での題材を多く取り上げ、毎回それなりの結論をだしているので良い雑誌であると思う。

本号の「透析医療における Consensus Conference 2005」では、医療一般でもっとも多い愁訴である消化器関連の諸問題を顎口腔領域の合併症まで含めて取り上げ、広くご専門の先生方より論文をいただいた。また医療の本質からは離れるが、毎回取り上げる医療安全対策も重要である。本号の医療安全対策では昨年四月の結核予防法改正を念頭において透析患者の結核を、災害関連対策ではコーディネーターの必要性、地下水利用を、また情報活用法の観点を中心として preventable death について寄稿いただいた。臨床と研究では毎号医学研究上の新知見の現場への成果還元を目指したテーマを集めているが、今回は腎不全の血管石灰化、睡眠障害など対策が急がれる問題、透析症例においても酵素補充療法の適応がある Fabry 病についてわかりやすい解説をいただいている。さらに今回理想的医療の確保に大きな影響をおよぼす可能性が危惧される医療保険制度改革がまじかに迫っており、それに関連する論文を医療経済、透析医のひとりごとの項などに執筆していただいている。

時代は明らかに変革を要求してきており、われわれは安定かつ継続的な高い医療の質と統制医療経済との間に新たな平衡状態を作ることと迫られている。私はかつてヨーロッパで、患者である私の家族が薬局で注射器と抗生物質、生理食塩液を購入し、クリニックへ行きそれを打ってもらうことを経験した。また、日本人商社マンが痛風発作をおこし、発作自体の治療よりも厳しい生活習慣の是正を強く求められたことを目の前で見てきた。回復不可能な小児末期癌患者が積極的治療を保険対象外にされたり、救急外来が予算不足から閉鎖され、多大な障害が生じたといったことも聞いてきた。より良い医療が常に経済と相反するものである点は世界中どこでも同じである。しかし、透析医療内容の管理者、監査人である透析医会には、医療者の良心に基づいてよりよい透析医療を実践する義務もある。このため本会誌の内容のなかでもこの問題は特に広く、深く掘り下げて取り上げ、かつ有効な結論を読者に提供していく必要がある。広報委員の責任は益々重くなるように思われる。